

2016年度・神戸女学院大学女性学インスティテュート・連続セミナー

# 「老いること 生きること」

<p>第1回</p> <p>5月6日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>障害のある人の自己決定とその支え方</p> <p>文学部 総合文化学科 准教授 與那嶺 司</p> <p>老いること、そして生きることは、個性ある人間の存在表出である「自己決定」の連続です。障害のある人が生まれ、生き、そして老いる際に直面する自己決定にまつわる問題を、出生前診断、障害者運動史、障害者の高齢化問題等を通して考えます。また、それらの問題も踏まえつつ、「自己決定」とはそもそもどのようなことを言うのか、また、障害のある人の自己決定をどのように支えればいいのかについて考えてみたいと思います。</p>
<p>第2回</p> <p>5月13日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>生きてるよろこび、そして豊かな老いへ</p> <p>—発達に障がいのある青年たちとの34年の音楽活動から学んだこと—</p> <p>人間科学部 心理・行動科学科 准教授 水本 誠一</p> <p>『この子が生まれたときダウン症と知らされ、初めて大学病院に。知能も遅れる、もう一生治らない。そのときこの子連れて死のうと・・・』それから50年、生まれてきた悲しみが生まれてきた喜びに、そして生きている喜びへと変わり、今迎えようとしている母と子の老いが豊かなものとなるように。彼らとの音楽活動を通して、生きることの素晴らしさ、豊かな老いについて考える機会になればと思います。</p>
<p>第3回</p> <p>5月20日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>老いを支える保健と医療：その光と影</p> <p>文学部 総合文化学科 教授 横田 恵子</p> <p>わが国が男女ともに平均寿命が世界一になって久しい現在、超高齢化社会の現実、日々様々に取りざたされています。もちろん、誰もが元氣・息災で安心な老後を迎えることが理想となることに異はありませんが、現実それをめざしていくとさまざまな「ひっかかり」が見えて来ることもまた事実です。老い(寿命)と「健康」「幸福」の関係を、「病の予防」「健康維持活動」「早期発見・早期予防」などをキーワードに、少し立ち止まって考えてみたいというのが、この回の目的となります。</p>
<p>第4回</p> <p>5月27日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>「終活」ブームの背景と課題—特に葬儀や墓に関する問題をめぐって—</p> <p>文学部 総合文化学科 教授 中野 敬一</p> <p>新たに造語として登場した「終活」は今や広く周知されています。なぜ「終活」なのでしょう。「よりよく生きるため」という理由は評価できます。しかし「自己決定」を求める風潮の強まりに危惧の念を抱く人も多いのではないのでしょうか。迷惑を掛けたくないという思いが終活を促し、迷惑を掛けられないという心理が終活を後押しします。合理的な発想も次々に生まれています。今日の葬儀や墓に関する問題を例に挙げて課題を明らかにしたいと思います。</p>

受講資格	一般成人・学生
受講料	無料
申し込み	事前申し込み不要



【会場】

神戸女学院大学 ジュリア・ダッドレー記念館  
104教室(JD-104)  
建物の入り口は2階になります。  
階段を下ると会場のある1階です。

【交通機関】

阪急「門戸厄神」駅下車、西へ徒歩約15分  
マイカーでのご来場はご遠慮ください。  
タクシーでお越しになる場合は、  
「西門」をご利用ください。

キャンパス内は全面禁煙となっております。  
あらかじめご了承ください。

TEL : 0798-51-8545 FAX : 0798-51-8527 e-mail : wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp  
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 [JD館3F] URL <http://www.kobe-c.ac.jp/gender/>

【問合せ先】神戸女学院大学 女性学インスティテュート